

## 2013年2月25日 日本テレビ 定例記者会見

### 《 要旨 》

#### <発表>

##### ・週間「三冠王」獲得

2013年2月第3週<2月18日(月)～2月24日(日)>の週間「三冠王」を獲得。中でも、2月19日(火)19:00～21:54 放送「踊る踊る踊る！さんま御殿！！最強2世大集合 セーラー服で女祭り SP」が高い視聴率を獲得したことが大きく貢献した。年度平均視聴率は、47週まで来ているが、ライバル局と接戦を展開している。

##### ・「耳の日」字幕放送を終日放送

3月3日(日)「耳の日」に字幕放送を終日実施する。1985年から耳の不自由な方々に番組をお楽しみいただくよう字幕放送を開始し、年々拡充させてきた。また字幕放送は災害時の重要な情報提供の手段であり、2017年までに字幕付与率100%という目標を掲げている。今年はさらに充実させ、朝の「日テレアップ Date!」から、深夜の「NNN ドキュメント'13」まで、生放送である「シューイチ」や「Going! Sports&News」も含めて終日実施する。

生放送番組への字幕付与には、かなり高いスキルが必要になる。100%付与に向けては、このスキルの向上が重要。

字幕放送や解説放送などの促進は、民放キー局、全国のネット局も足並みそろえてやらなければならない。

##### ・巨人戦、北米で放送へ

2013年度の読売巨人軍主催試合(全72試合)を北米(米国・カナダ)でも放送する。この放送が海外での巨人軍、日本プロ野球のさらなる人気を高める好機となることを期待している。アメリカの大リーグで活躍している日本の選手も多く、野球自体がワールドワイドで展開されている中、海外においても日本の野球ファンが増えることは、日本のプロ野球全体にとっても良いことだと考えている。

ジャイアンツ戦を中心に野球放送を長年続け、プロ野球振興の一翼を担ってきた日本テレビとしては、野球にさらに注力し、可能な限り世界各国にコンテンツを提供していきたいと考えている。

## ・ACL 放送権獲得、3 波放送へ

2013 年、アジアサッカー連盟（AFC）が開催するサッカー・クラブチームのアジア王者を決める大会「AFC チャンピオンズリーグ（ACL）」を、3 波 4 チャンネル（地上波、BS、CS の日テレ G+、日テレプラス）で 2 月 26 日（火）から放送する。

ACL 王者は「FIFA クラブワールドカップ」にアジア代表として出場することになっている。アジアでのクラブチームの試合がより盛り上がっていくことを期待しており、当社は放送を含めて応援している。

## ・BS 日本 初の大型企画番組

BS 日本は、中央公論新社と連携し、浅田次郎さんの時代小説「一路」の世界を番組化、大型スペシャルシリーズとして、「一路、疾風怒濤 ～浅田次郎と辿る 中山道の四季」(仮)を、4 月からの 1 年間、計 4 回にわたり放送する。

## 1. 視聴率動向と編成戦略

先週は、週間「三冠王」。年間平均視聴率はまだ始まったばかりだが、年度平均視聴率に関しては、残り 1 か月強。年間、年度ともライバル局に、全日は勝ち、ゴールデンは僅差で負け、プライムも負けているという状況。ゴールデンに関しては先週も差をつけて勝っており、年間、年度でも追いつきたいと考えている。

レギュラー番組と特別番組のバランスを考えて、最後までしっかりとゴールデンで追いつくような編成をしていく。目先の特番戦争を戦うつもりはない。レギュラー番組のタイムテーブルは、視聴者の皆さん、クライアントに対する一つの約束事だと考えており、大きく逸脱したり、常時崩れるような編成は行わない。

視聴率は目的ではなく、その先に利益を生んだり、観ていただいている視聴者の方々の満足を生んだりするものだと考えている。その視聴率の取り方が日本テレビの編成方針と違うのであれば、そのような編成は行わない。

## ・4 月期の番組改編

今後もドラマには力を入れていく方針。

4 月期の土曜ドラマは「35 歳の高校生」。今や視聴率女王の 1 人と言われている米倉涼子さんが、日本テレビのドラマで初主演となる。かなりスカッとしたドラマになると思うので、土曜日の親子視聴に加え、さらに視聴者の幅が広がることを期待している。

水曜ドラマは、有名な小説家の原作を基にしたラブサスペンス。改めて記者発表する。

水曜ドラマ、土曜ドラマともに、それぞれの枠のコンセプトをしっかりと打ち出していく。水曜ドラマは、女性の生き方が表に出る、女性に観ていただけるドラマを編成し、土曜ドラマは、家族そろってワクワク、ハラハラ、ドキドキしながら観られるドラマにした

いと考えている。

バラエティーに関しては、月曜 19 時、火曜 22 時、金曜 19 時を改編する。

月曜 19 時は「赤丸！スクープ甲子園」。何の変哲もない普通の学校にも、いろいろな面白い校風、校則、行事があり、学校を中心とした日常の商店街など、私たちの身近なところでのスクープ映像を追いかけていく番組。ロンドンブーツ 1 号 2 号の田村淳さんやベッキーさん、上重聡アナウンサーが MC を務める。

火曜日 22 時は「幸せ！ボンビーガール」。これまで深夜枠や単発枠で何度か放送し、好視聴率をとった実績がある。TOKIO の山口達也さんが MC。“ビンボー”でも幸せに暮らす人々を、温かい目線で楽しく明るく描き、紹介するバラエティー。女性への応援歌になってくれればとも考える。

金曜 19 時は「笑神様は突然に…～芸人のプライベートに笑いの神が降りた瞬間～」。司会はウッチャンナンチャンの内村光良さん。仲の良い芸能人数組が旅をしたり、あるいは鍋をその人の家で囲んだりといった、プライベートにカメラが密着。普段通りの雰囲気でおもしろく楽しんでもらう中で、芸人なら何も仕掛けがないところでも“笑いの神が降りてきた瞬間”があるだろうということで、その瞬間だけを連発で見せようというロケバラエティー。単発で 2 回放送したが、非常に期待できる内容である。

4 月改編では、弱点を補強し、視聴の流れを良くすることを狙っている。レギュラー番組を強くすることがタイムテーブルの強化につながると考えている。

## **2. 営業状況と放送外収入**

### **・営業状況**

1 月のタイムセールスはほぼ堅調に推移し、前年並み。年度内の単発セールスは、開局 60 年の特別番組「ビートたけしの超訳ルーヴル（仮）」などが中心になる。4 月改編に関連したネットタイムのセールスもほぼ予想した範囲の中で順調に進んでいる。

スポットは、1 月の売り上げが前年比で 109.3%と好調。シェアは 26.5%。この数字は、2003 年 11 月の 27.3%以来の高水準。好調の要因は、スポンサーが日本テレビの番組に注目してくれたということに尽きるが、世帯視聴率が良くなってきたこと、中でも若い世代の視聴率が非常に好調になってきていることが大きい。

スポットの実額は、さまざまな景気動向等で変動することがあるが、日本テレビはシェアの拡大を 1 つの目標にしており、そういう意味ではかなり目標に近づきつつある。

第 4 四半期の見通しは、2 月のスポットは前年を上回る見込み。3 月は前年実績に近づいているが、まだ前年実績を超えるまでは至っていない。

通期では、放送収入は前年比 100%を超える見込み。

## ・放送外収入

放送外収入の大きな柱は、「映画」「イベント」「通販」「有料放送事業」。

映画は、「おおかみこどもの雨と雪」「ツナグ」「エヴァンゲリオン新劇場版：Q」「ホタルノヒカリ」などが好調だった。

イベントは、「大エルミタージュ美術館展」や「館長 庵野秀明 特撮博物館」などがヒットした。

通販は、特番やレギュラーの通販番組数の変動により、昨年にと比べると少し伸び悩んでいる。

有料放送事業は好調。特に昨年巨人戦が盛り上がったため「日テレ G+」が好調。また「日テレプラス」はソフトバンク戦を放送したことで好調に推移し、「日テレ NEWS24」でも加入者数が伸びている。

通期では、対前年で増収増益になる見込み。

## 3. その他

### ・テレビ放送開始 60 年 NHK×日テレ 特別番組共同制作

テレビ放送は、60 年前の 2 月に NHK、8 月に日本テレビが開始した。テレビは日本の文化の中で非常に大きな足跡を残してきたが、これからもさまざまな可能性があるのだということを知ってもらえるような番組を協力し合って作ることができれば、という話が、NHK との間で 1 年ほど前からあった。それぞれの局の編成、制作の現場がそういう趣旨を汲み取り、作り上げたのが 2 月 1 日（金）・2 日（土）2 夜連続で放送したコラボ番組。

公共放送の NHK と民放の日本テレビの間には大きな垣根があり、コラボすることは難しいのではないかなという方々もいた。また実際始めるまでは、社内でも本当にできるのかという思いがあったことは事実。しかし、お互いに面白くて、ためになる番組を作ろうというテレビマン同士の共通した志があり、実際に作業を始めていく中で、非常にいい形で結実した番組であったと思っている。

今回の企画は、改めてテレビの面白さを教えてくれた。深夜という難しい時間帯ではあったが、観てくれた方々からは賞賛の声を頂いた。

8 月 28 日の開局記念日に 2 月と同様のことを行う予定はないが、今回の経験を生かして、日本テレビ開局 60 年のイベントを考えていきたいと思っている。

次の NHK とのコラボについては今予定があるわけではないが、1 つの大きな壁を乗り越えて番組を作ることができたということで、今後テレビ文化の発展という面で協力できる場面はこれまで以上に増えてくるのではないかと期待している。

## ・海外ビジネス

昨年 12 月に海外ビジネス推進室を立ち上げ、海外ビジネスに力を入れているが、2 月 25 日から、シンガポールで日本コンテンツ専門の総合エンタテインメント・テレビチャンネル「Hello! Japan」が放送開始となった。電通が中心となり、日本テレビをはじめ、キー局各社が参加している。

また、4 月から韓国で、ドラマ「ハケンの品格」のリメイク版が放送される。テレビ局は韓国の KBS。

## ・東京スカイツリー「受信確認テスト」

2 月 23 日（土）に行われた「受信確認テスト」では、「東京スカイツリー受信相談コールセンター」への総入電件数は 1,794 件、T-SAP0 要対応件数はそのうち 745 件。

総入電件数、要対応件数ともに、1 週前 2 月 16 日（土）の「受信確認テスト」に比べると少し増えているが、2 月 2 日（土）、2 月 9 日（土）に比べると減っている。2 月 17 日（日）までの累計は、総入電件数が 2 万 5,767 件、T-SAP0 の対応必要な件数が 7,710 件。現在のデータでは、全体の規模感がつかめているとは言えない。

（了）